学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区
目白１丁目５番１号
黎明会館316号室
電話 03（3986）0221内線2607
http://www.geocities.jp/gakushuinpress/index.html
発行・編集人　宮下秀毅
年間500円

己を外へ向けよう

本学ＯＢ
週刊少年ジャンプ編集者
吉田幸司氏
INTERVIEW

集英社に入社後、現在は『週刊少年ジャンプ』の漫画編集者として、日本のエンターテインメントを影で支える吉田氏。そんな氏が担当した漫画の1つに『DEATH NOTE』がある。この作品は実写映画や小説、アニメ化までされ、一大旋風を巻き起こした。漫画業界の第一線で活躍する敏腕編集者は本学でどのような経験をし、今、何を思うのか。氏の持つ沈着冷静な観察眼は我々学生に対して、何事にも真摯に向き合う重要性を認識させてくれるだろう。

大学時代の吉田氏

日本の漫画業界の最先端を行く『週刊少年ジャンプ』編集部で活躍している吉田氏。これまでも、多くの人気作品をサポートしてきた。そんな氏は、どのような大学生だったのだろうか。

氏の学生生活は、大部分がサークル活動で占められている。高校までサッカーをやっていた氏は、大学入学時、将来スポーツ記者になりたい、スポーツ系雑誌で働きたいと漠然と考えていた。そこから大学新聞社に興味を持ち、所属後は主にスポーツ面を担当していた。

「大学時代は新聞の活動が面白くて、正直授業にはあまり出ていませんでしたね。卒業も結構ギリギリで。ただ、騒ぐのが苦手な性格というのもあって、派手に遊んでたわけでもなかったです。お酒もそんなに強くもないですし」

大学祭などの学校行事にも、サークル活動を通して関わっている。それ自体を楽しむよりも、記事を書くために取材をした記憶の方が多いそうだ。

大学新聞社での経験

大学時代の吉田氏は、大学新聞社に情熱を燃やしていた。その活動の中でのやりがいを、氏はこう振り返る。

「元々、大学新聞は全体が一般紙的な作りで、スポーツ面も同様でした。でも、個人的にはもっと見てもらえるように、スポーツ新聞みたいな賑やかな形にしたいなと思うようになって。メインの写真を大きくするとか、写真の上に見出しを載せるとか。今振り返ると全然足りないなと思いますけど、自分なりに考えて、やりたいことをやれてたのが楽しかったですね」

また、この新入生歓迎号で恒例となっている本学ＯＢ・ＯＧインタビューだが、その記念すべき第1回目の取材・記事執筆を、氏が担当している。初回のＯＢ・ＯＧインタビューの取材をした氏が、巡り巡って今度は取材される立場となる。この運命的な巡り合わせを、一体誰が想像出来ただろうか。

大学新聞社では、今までにないことを意欲的に試みていた氏だが、編集作業は決して楽しいことばかりではなかったようだ。担当する記事が何度も駄目出しをされ、書き上がるまで徹夜をしたといったように、体力面と精神面、共に辛い時もあったとのこと。しかし、苦しい中にも大きな充実感があったサークル活動を通して得たものは、現在の氏の糧となっている。

「文章を書くには、色々なことを考えないと書けないと先輩から教えられました。例えばスポーツ記事を書く場合、ただ事実だけでは面白くない。この試合結果が何故生まれたのか、どんな練習が勝利に繋がったのか。そういったことがあって初めて『読んでもらう』文章になると。そんなことを拙いながらも考えていたのは、今、働く上でのベースになっていると思います」

学生時代の吉田氏（後列左から２番目）

就職活動について

大学生の関心事の1つとして挙げられるのは、やはり就職だ。吉田氏の場合は、就職活動が漫画の編集の仕事を志すきっかけになったという。

「就職活動の時も、最初はやはりスポーツ系の新聞・出版社が希望でしたね。でも、スポーツ雑誌は採用枠が少なくて。なので、出版社で他にやりたいジャンルは何だと考えたところ、漫画だったんです。その中でも、一番好きだった『ジャンプ』で仕事がしたいと。それから、漫画の方向へシフトしていきましたね」

氏にとって、漫画は子供の頃から大きい存在だった。高校生の頃、漫画好きの友人の影響でその面白さに改めて気が付き、単行本を大量に買い始め、大学卒業時には約3500冊にもなったそうだ。その後も冊数は着々と増え続け、現在は約8000冊に達している。

漫画を志望した氏は、編集者を目指すからには、最近の漫画の流れを知っていなければならないと考え始める。そこで少年漫画から青年漫画、少女漫画に至るまで、ありとあらゆる漫画を読み漁った。その頃は、漫画を読んでいた記憶しかないそうだ。そんな氏は、不景気による就職難に悩む学生達にこう助言する。

「僕は、就職活動のために一生懸命勉強した記憶はあまりありません。その代わり、ただひたすら漫画を読んでました。その時は普通だと思いましたが、意外と皆さんはやっていない気がします。これから漫画を仕事にしたいなら、今の流れは知らないといけないと思うし、どんな仕事がしたいか、どんな漫画が作りたいかイメージする必要があると思います」

自ら主体的に考え、物事に取り組んでいく。それは、普段の生活の中でも簡単に出来そうで、なかなか難しい。そのことを私達は、社会に出る前に見つめ直す必要があるだろう。

入社してから

漫画編集の道に進んだ吉田氏。そこで待ち受けていた会社生活とは、一体どのようなものだったのだろうか。

「どんな仕事でもそうだと思いますが、初めからうまくいくことなんてありません。また、編集部は男ばかりで体育会系的なところもあって、厳しい駄目出しもしょっちゅう。でも、だったらどうすれば良いか考えるしかない。とにかく頑張るしかなかったですね」

大抵の人なら、自分の欠点を常に指摘されれば、めげてしまうことだろう。だが、氏は違った。彼は、浪人や大学新聞社の活動で限界を体感した経験などから、上司からの厳しい言葉は苦にならず、むしろ有益なアドバイスと捉えられるそうだ。

「人生は辛くて普通だと思います。勿論働いていて大変な面はありますが、好きなことを職に出来た以上、文句を言う気はないです。大変じゃない仕事なんてないとも思いますしね」

そう穏やかに続けていく。その言葉の随所に、氏の強い志が感じられた。

漫画家との出会いを通して

編集という仕事柄、吉田氏は多くの漫画家と出会う機会がある。そんな環境の中で氏は、彼らを天才だと感じ、一緒に働けることは幸せだと語る。

「漫画を描くことは、極端に言えば映画を単独で作っているようなものです。映画なら、物語を紡ぐ脚本家の力、登場人物（キャラクター）を演じる俳優の力。更に、カメラワークや美術などの力も必要で、それらを指揮する監督の力も勿論大きい。原作と作画が分かれていたり、アシスタントがいたり、というのもありますが、これらを基本的に1人でこなし、且つ人に感動を与える力を持つことは、まさに才能の賜物と言えます。そんな天才達と共に仕事が出来る。こんな楽しいことはないですね」

秀でた能力を持つ漫画家達と接する日常から、刺激を受けることは多いだろう。彼らと働き続ける中で、氏が持ち続ける信念を教えてもらった。

「編集は漫画家さんがいないと何も出来ません。そして、漫画家さんは命を削って描いている。だったら、自分がきついなどとは言ってられない。とことん付き合って、漫画が面白くなる助けになろうと努めるだけです」

仕事のパートナーである漫画家を第一に考える氏の仕事への姿勢からは、彼らを尊敬する思いがうかがえた。

編集という仕事

漫画の編集者として、吉田氏は『D.Gray－man』や『DEATH NOTE』などの人気作品を手掛けてきた。これらの成果は、並大抵の能力では達成出来ないと思われるが、氏は冷静に分析し、自分は至って普通だと述べる。

「編集をする際に、特別な能力は必要ありませんよ。漫画家さんは才能に溢れているけれど、僕は凡人です。すごく面白いキャラや話が思い付くわけじゃない。ただ凡人だからこそ、一般的な、沢山の人々と面白さのツボは同じだと思いながら、漫画の打合せをしています。あとは根性さえあれば何とかなるかなと」

客観的に自己を捉え、自らの役割を認識する氏の言葉には、説得力がある。

また、今までの氏の仕事の成功例として『DEATH NOTE』が挙げられる。実写映画化やアニメ化まで遂げたこの作品は、他の仕事と比べて特殊性はあったのだろうか。

「物語がサスペンス調であることは、当時のジャンプでは特殊だったと思います。新しいタイプの漫画が出来たし、様々な展開の後押しもあって、沢山の方々に読んで頂けたので嬉しかったですね。でも、他の漫画と思い入れは変わりません。どれも漫画家さんと沢山の打合せを重ねて作っていったものなので」

このように、担当する漫画に懸ける情熱や愛情も語ってくれた。編集者としての氏の今後の目標は『ジャンプ』で次なるヒット作を出すことだそうだ。

学生へのメッセージ

本学で新生活を始める学生に向けて、吉田氏から激励の言葉を頂いた。

「今は、インターネットを使えば簡単に色々な物が得られるし、人と関わるのは面倒だという考え方も分かります。でも、色々な人と交流してほしいですね」

そして、学生の時から実は人見知りだと話す氏は、大学新聞社の活動から、人との触れ合いの面白さを知ったそうだ。それが、入社してからの人間関係の作り方に繋がっていると言う。

「様々な方への取材を通して、人それぞれの考え方、感じ方があるという当たり前のことが分かりました。僕の場合は取材でしたが、それはどんな形からでも良いと思います。いつでも内ではなく外に向き、なるべく深く話す方が、相手の気持ちを汲み取る力が身に付いていく。その経験は先々の役に立つと思いますよ」

生来、才知に恵まれた人は少ない。それでも己を真っ直ぐ見つめ、自身の持ち得る力を最大限に活かしてきた吉田氏。そんな氏の存在は新入生や在学生に、新たな世界で奮闘するための活力を与えてくれることだろう。

取　　材　原田富美子　　深田　　杏
　　　　　加藤絵梨香　　深澤　知代
取材協力　株式会社　集英社

PROFILE

吉田氏が携わったコミックス

◇吉田幸司（よしだ・こうじ）
◇2001年３月、本学文学部フランス文学科（現・フランス語圏文化学科）を卒業。同年４月、集英社に入社した後に『週刊少年ジャンプ』編集部に配属される。累計発行部数が2500万部を越えた『ＤＥＡＴＨ ＮＯＴＥ』を始め、数々のヒット作の編集を務める。現在、同誌『めだかボックス』（原作・西尾維新／漫画・暁月あきら）を担当中。
◇過去の主な担当作品
『ＨＵＮＴＥＲ×ＨＵＮＴＥＲ』（冨樫義博）
『ヒカルの碁』（原作・ほったゆみ／漫画・小畑健）
『Ｄ．Ｇｒａｙ―ｍａｎ』（星野桂）
『ＤＥＡＴＨ　ＮＯＴＥ』（原作・大場つぐみ／漫画・小畑健）
『家庭教師ヒットマンＲＥＢＯＲＮ！』（天野明）

編集者の日常

私達は普段、漫画を読んでいるだけでは、編集者の仕事ぶりを知ることは出来ない。彼らの毎日の生活について、吉田氏に伺ってみよう。

まず、編集者は1日をどう過ごしているのだろうか。「編集部では、特に出社時間が決まっていません。なので、昼頃に出社して夜中に帰るのが、僕の場合は習慣化していますね。そして担当する先生とのやりとりに合わせて、周りの予定も決まっていきます」。『ジャンプ』は週刊連載のため、1週間が仕事の区切り目となる。最初に編集者は、漫画家と次週の内容の打ち合わせをする。ここで話の展開が固まると、漫画家に下書きとなるネームを描いてもらう。それを編集者がチェックし、展開や台詞など細かい部分の修正を話し合う。この段階で吉田氏は、台詞が多い場合には直接手を加え、文字を削ることもあるそうだ。ネームが完成すると、原稿執筆に取り掛かってもらい、それが出来上がれば受け取りに行く。「原稿は昼夜を問わず描き上がり次第、受け取りに行きますよ。すぐ次週のことを考えなきゃいけないですしね」とのこと。それから、完成した原稿の台詞の書体や文字の大きさを決める作業があり、それを印刷所に入稿し、校正を経て初めて『ジャンプ』が出来上がる。以上の流れが、漫画編集者の主な仕事だ。

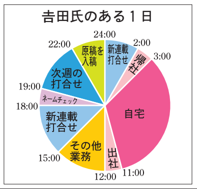
しかし、彼らの仕事はこれだけに留まらない。編集者は、担当している漫画がアニメ化や映像化される場合には、その脚本などをチェックし、改善点を指摘する。その他にグッズやゲームが販売される際には、デザインや内容の確認も行うのだ。加えて、新人の漫画家と打ち合わせをして、次に連載する漫画を作る仕事もある。最も多忙だった時は、週に一度しか帰宅出来ない日々が続いたことも。驚くことに、これ程まで不規則な生活の中でも、氏は身体に特別な気遣いをせずに健康を保てているそうだ。

また、共に漫画を作り上げるパートナーとして、漫画家が担当の編集者について言及することは多い。そこから、両者の間の緊密な関係性が分かるだろう。吉田氏は『D.Gray－man』で、コミックスのおまけ漫画に、恐怖の担当として登場。更に『バクマン。』では、奇抜な行動をする編集者の吉田として描かれている。このことに対して氏は「『バクマン。』の大場先生・小畑先生とは『DEATH NOTE』での付き合いがあるので、気兼ねする必要もなく使い勝手が良いんでしょうね」と笑顔で語った。キャラクターを通して、編集者は読者にも愛される存在となっているのだ。

編集者の仕事からは、作品をより面白くするために尽力する姿が垣間見られる。是非、彼らの役割を再認識し、漫画の魅力を一層感じてほしい。（知）

『バクマン。』の吉田氏　©大場つぐみ・小畑健／集英社

吉田氏のある１日



明窓浄机

早く社会人になりたい、それは私が高校生の時に抱いていた気持ちだ。学校で学ぶことは、本当に大切なのか。勉学に意味が見出せず、規則に縛られた学生でいることは、私を不自由で窮屈な思いにさせていた▼しかし、その考えは浅はかだったと気付く。私は予備校生活を通して、周囲の人からの支えが不可欠な自分の未熟さを痛感した。他者に守られてばかりの私が今、社会で一人にされても途方に暮れるだけだろう。もっと教養を身に付け、思慮深い人間にならなくては。そのために、来たる自立の日まで幅広く学び、与えられたモラトリアムを充実させようではないか▼そう決心して過ごした本学での1年間。勉強やサークル活動、更にバイトや遊びの予定を詰め込む自分がいた。これらの多くに、本気で取り組めたと胸を張れる。全力を尽くした経験は、その結果と関係なく清々しい気分にさせるものだ▼新入生諸君には、新しい環境への迷いもあるだろう。だが、躊躇している暇はない。思う存分、行動出来るのは今しかないのだ。学生でいられることの幸せを噛み締めつつ、本学での毎日を有意義なものにして頂きたい。そうすれば、それらを振り返った時に、心から自分自身を誇れるはずだ。（猫）

紙面紹介

２・３　キャンパス・ナビ

食堂からトイレまで、入学したら必ずやお世話になる場所を、隈なくご案内致します。是非、目を通してみてください。

４　グルメ　ＩＮ　目白

ここ目白で見付けた、美味しいお店を紹介します。せっかくの大学生活、グルメ情報を知っておかないと損ですよ！

月刊少年ミヤシタ

まだまだ続く「月刊少年ミヤシタ」。今号では遂に、その名の元となった雑誌の編集者の方へインタビューすることが出来た。新歓号にご協力頂いた全ての方々へ、この場を借りて御礼申し上げます。（雷）

新進気鋭の君達へ
～4学部長寄稿～

文学部長 神田 龍身教授

「新たな自分」

皆さん、ご入学おめでとうございます。大学生になったのですから、まずは全身全霊を以って打ち込めるような、興味ある学問を見付けることだと思います。そして、そのものに徹底的に拘ることです。その時、果たして何が見えてくるでしょうか。もちろん、知識や認識は深まりますが、それだけではありません。我を忘れてそのものに没頭することで、これまで思ってもみなかった自分が見えてくるのではないでしょうか。自分はこういう人間で、こういう面は得意だが、ああいう面は苦手と決めかかっている人が多いのですが、それはあまりに性急な自己評価です。自分のことは、自分のことであるにもかかわらず、実はよく分からないのです。対象とぶつかり合うことで人間は生成発展し、無限に生まれ変わっていくのではないでしょうか。なにもこれは学問の問題に留まりません。新たな自分を発掘すべく、積極果敢に生きてください。

法学部長 紙谷 雅子教授

「ビミョーな年頃」

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。現在日本では十八歳から二十歳の人々を、法律上大人と扱うのが相応しいかどうか議論されています。ビミョーな年齢というわけです。

学習院大学では、学生を責任感のある大人（に限りなく近い存在）として扱います。何故なら、大学生活の全てが責任ある大人として行動するための予行演習だからです。練習の時に失敗しても、本番でその失敗を活かすことが出来ればその失敗は取り返しがつかないというわけではない。だから、見つけたチャンスを活かせる人になってほしい。そんな期待をして、皆さんを出来るだけ大人として扱うのが大学です。

大学は自分から「学ぶ」場所です。疑問をそのままにしないで、積極的に答えを探す場所です。誰かが教えてくれるのを待っていては、いつまで経っても答えは見つからないでしょう。しかも、答えがある場所は、書籍の中だけではないのです。今、あなたの隣に座っている人が、これから聞く話が、思いがけず、答えへの導線となるかもしれません。「知的な好奇心を持って、怯まず挑戦する」心意気で、大学生としての一歩を踏み出してください。法学部は皆さんを歓迎します。

理学部長 高橋 利宏教授

「科学を楽しみましょう」

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。厳しい受験を乗り越えて、晴れて大学生になられた皆さんは、これからの4年間にどのような期待を持っておられるでしょう。私達は、皆さんの大学生活が充実したものになるように、力一杯お手伝いをするつもりです。

理学部では、これまでの物理学・化学・数学の3学科に加えて、昨年度から生命科学科がスタートしました。そして今春からは、理学部の教育・研究の中心となる新しい南7号館が完成、運用を始めました。ここには、実験系のほとんどの研究室が収容されているだけでなく、学生諸君のための談話コーナーや、ロッカーも整備されています。理学部のメンバー全員が、新入生の皆さんと同じように、ウキウキした気分でこの新学期を迎えました。理学部は日々、新しい知識が積み重ねられている最先端の研究の現場です。皆さんは、自然科学の最先端がこんな身近にあることに驚かれることでしょう。さあ、一緒に科学を楽しんでみましょう。

経済学部長 上田 隆穂教授

「積極的に」

5月になれば、構内のつつじが咲き揃い、新緑も迫力を増します。そうなると自然豊かな構内は緑の海となり、風が吹くとその波が幾重にも見えます。この巡りくる季節を素晴らしいと思う人も、多少の陰鬱を感じる人もいるでしょう。これは自然が、自分の心を映し出す大きな鏡だからです。みなさんは構内でどう感じるでしょう。幸福感、期待感、それとも漠とした不安感でしょうか。

これからは、自分の気持ち全てをお互いにぶつけ合ってみてください。「自分は大学で何を求めているのか、何を感じているのか、将来何がしたいのか、どんな可能性があるのか・・・」などです。先生も先輩も、そして仲間もあなたを受け止めてくれます。遠慮してはいけません。アグレッシブに生きないと、4年間はあっという間に手のひらからこぼれ落ちてしまいます。

大学とは、自主性・主体性を尊重するところです。自ら行動を起こさない限り、何事も起こりませんし、成長もありません。この大学であらゆる可能性を求めて、積極的に生きてみましょう。

明治の情緒を残す
北別館・東別館

厳かに佇む北別館

本学のキャンパス内には、数多くの学習院の伝統を物語っている建物が並んでいます。その中でも、ひと際歴史を感じられるのが、白い北別館と褐色の東別館です。

まずは木々の中にある北別館から紹介していくことにしましょう。この木造の建物は、明治期の学校建築を多く手掛けた久留正道の設計で造られています。学習院が目白に移転した翌年の明治42年に、図書館として建てられました。初めは比翼型でしたが、文学部棟の建設によりL字型になって、今の場所に移りました。現在は博物館相当施設の史料館となっています。

館内では、中世以来の公家、大名、華族などに関連する史料が13万点程保存されています。よく見ると換気口や蝶番にも桜の飾りがデザインされるなど、細かい箇所に意匠が凝らされていることが分かるでしょう。学芸員の資格取得事務室も併設されていますので、興味のある方は是非立ち寄ってみるのはどうでしょうか。

本院の歴史が詰まった東別館

続いては、その北別館の東に位置している東別館です。当時、学習院は全寮制であったため、皇族寮として大正2年に建てられました。山階（やましな）宮武彦王、秩父宮雍仁（やすひと）親王などの皇族の方々も利用された建物なのです。木造2階建てで、玄関のひさしにはシンボルである桜の花もあります。当時は向かい合わせに院長官舎があり、その玄関先にも同じ桜の飾りがあって一対になっていました。このような古い面影を残している建造物は、なんと今は教室として使用されています。こんな歴史ある建物で授業が受けられるのも学習院ならでは、と言えるかもしれませんね。

この2つは、キャンパスの他の一部の建築物と同様に、平成21年に国の登録有形文化財に登録されました。学生生活にこれらの貴重な建造物があることを噛み締め、明治から大正期に思いを巡らすのも良いかもしれません。（板垣亮平）

トイレ大捜査線

日々の生活を送る上で、トイレは不可欠なものですよね。本学には数多くの建物があり、内部の化粧室の様式もそれぞれ異なっています。そこで、学内に点在するトイレについて調査してみました。

実際に調べてみたところ、やはり場所によってかなりの差がありました。それが顕著に表れていたのが、互いに隣接し合う西1号館と西2号館でしょう。2号館は建物自体が新しく非常に清潔なのに対し、1号館の屋外にあるそれは、長年使い込まれた公園の公衆便所のようです。綺麗なトイレを利用したいのであれば、1号館よりも2号館の方がおすすめですよ。

ところで、便座に腰かけた時に、お尻が冷たくて辛い思いをしている方も多いのでは。そんな人達のために、便座がウォシュレットとなっている場所を紹介しましょう。備え付けられているのは、西5号館の4～6階・法経棟の8～13階・文学部棟・計算機センター・黎明会館です。特に、法経棟の8～13階の化粧室は少し狭いものの、美しさは学内でもトップクラスです。もし機会があれば、一度その様式美を堪能してみてはいかがでしょうか。

調査を行う中で、変わった特徴を持つトイレをいくつか見付けました。その内の1つが計算機センターです。ここに長時間こもると、突然照明が消えてしまうことがあるので、ご注意を。その他にも、西5号館4～6階の男子便所には、個室内に窓が据えられており、閉ざされた空間の中から外の風景を楽しめます。また、東別館にある便器は、天井から垂れ下がった紐を引くことで水が流れる型のため、歴史を感じることが出来るでしょう。

ここで紹介したもの以外にも、学内には様々なトイレがあります。後はご自身の足でお気に入りを見付け、快適に用を足してください。（内田哲郎）

至高の書を探しに
大学図書館

生い茂る木々の間に、本学の誇る大学図書館は建っています。当館には、約44万冊の蔵書と約4600種の雑誌を収蔵。大学4年間で必要な本は、ここへ来れば見付かるはずです。

では、入館してみましょう。ゲートを通る際は、学生証が必要となるので気を付けてください。まず、1階にはジャンルごとに本が陳列されています。また、新聞の閲覧コーナーや、2ヶ月ごとに特集が組まれる展示コーナーもあります。勉強用のデスクで集中するも、中央部のソファでリラックスするも良し。自分のスタイルで読書を楽しんでみてください。

2階では、雑誌を読めます。また、百科事典などの参考書の棚もあり、索引などを調べたい方はここへ。また、レファレンス・カウンターもあるので、何か困った際は気軽に頼ってみてください。資料のコピーも受け付けています。

堂々とそびえ建つ書物の館

そして3階は、自習と閲覧専用のフロアです。グループ用の部屋もあるので、話し合いにはこちらを利用してください。設備を上手く活用し、快適な空間を保ちましょう。更にこの上には、屋上休憩室があります。ここでは飲食が可能です。日当たりも良く快適な場所なので、息抜きに来ても良いでしょう。

さて、多くの蔵書を前に不安になったら、検索端末「GLIM／OPAC」を使ってみましょう。この検索機を活用すれば、お目当ての本の場所、貸出の可否が一目瞭然。もし貸出中なら、予約も出来ます。更に当館に置いていない場合も、協定校や女子大から取り寄せてくれます。また最近では、豊島区立図書館からの取り寄せも可能になりました。見た目の変化はありませんが、本学の図書館は、利用者のニーズに応えて日々、規模を拡大しています。

これらの本は、一度に10冊まで借りられます。鞄に入り切らなさそう、と危惧している人も安心してください。今後は、利用者に対してオリジナル手提げ袋が配布される予定です。また、貸出期間は2週間となっています。延滞するとその日数分、貸出停止になるので、注意してください。

図書館は、学生の大きな味方です。是非、積極的に足を向けてみてください。学生時代の良い本との出会いは、一生ものの宝になるでしょう。（菊岡真衣）

学習院の百貨店
輔仁会館

西門をくぐり、体育館を通り抜けると目に入るのが輔仁会館です。この建物には学生生活に欠かせないものが揃っており、多くの人が足を運ぶことになるでしょう。

1階には、学生の食生活の支えとなっている「カフェテリア杜」があります。ここでは、からあげ弁といった人気メニューを始め、スパゲッティや日替わり定食など、豊富な種類のランチが食べられますよ。学食の室内は昼休みにとても混み合い、外にあるベンチには季節を問わず多くの人が集まっています。また、何か購入しないと利用出来ないのではないか、と思う人もいるでしょう。しかし、お弁当など昼食を持参している人も使えるのでご安心を。お昼を過ぎると談笑の場として人が立ち寄り、1日を通して学生の姿が見られます。

カフェテリア杜の向かい側にあるのが、テイクアウトコーナー。お昼前から日替わり弁やお弁当、ソフトクリーム、飲み物を販売しています。皆さんも、いずれ行列に並ぶことになるかもしれませんね。

続いて、階段を上がると目の前にあるのがセブンイレブンです。学内にあっていつでも気軽に買いに行くことが出来るので、便利ですよ。そして、コンビニの前には数多くの文具を取り扱う「蓁々会」があります。

教室はないのでご注意を

学生の必需品であるノートなどはもちろん、学習院オリジナルグッズも販売されています。中でも、ロゴが刻印された煎餅はお土産にピッタリで、人気のある商品ですよ。皆さんも是非味わってみてください。学生に大人気の本学限定のクラッチバッグも売られています。これを使って、教科書を持ち歩いてはいかがでしょうか。

2階から蓁々会側のベランダへ出ると、ヌードルコーナーがあります。ここは、名前通りうどんやラーメンなどの麺類を販売しています。隣の「さくらラウンジ」は、落ち着いた雰囲気の喫茶コーナーなんですよ。構内にお茶も食事も楽しめる快適な空間があるなんて素敵ですね。3階と4階は、サークルや部活動の人達が利用している集会所も備え付けてあります。

この便利な建物には、毎日大勢の学生が様々なものを求めて訪れています。お腹が空いた時やお菓子を買うため、文房具の買い足しに、是非立ち寄ってみましょう。（緒方花穂里）

身近な史跡を巡ろう！

歴史ある本学には、国の登録有形文化財にも指定されている建造物が数多くあります。その中でも馴染みのあるこの4つを、皆さんはご存知でしょうか。

学校の顔とも言える正門が造られたのは、明治41年。なんと100年以上も前から、本学への来訪者を迎えているのです。電車で通学する人は、専ら西門を利用していることでしょう。しかし、たまには学校を右手に見ながら目白通りを直進してみてください。威風堂々と構える正門をご覧になれます。一見の価値があるでしょう。

正門を抜けて道なりに進んで行くと、右側に見える建物が西1号館です。昭和5年に建てられ、当初は中等科の校舎として使用されていました。内部こそ1999年にリニューアルされたものの、その外観は今でもクラシックな様相を呈しています。これは、設計の際に英国の名門・イートン校をモデルにしたためです。現在は語学棟として使用されているので、多くの人が利用することになるでしょう。このような背景を知りながら授業に臨むと、いつもと違う気分で勉強出来るかもしれませんね。

更に奥に進んで行くと、左に南1号館が見えてきます。西1号館に似た外観で、建てられたのも同時期である昭和2年です。元々は理科教室として建てられました。現在でも、物理学科や化学科の研究室として使用されています。理学部以外の学生は関わる機会は少ないかもしれません。しかし、時には足を止めてその姿を眺めてみてはいかがでしょうか。

西1号館の奥には、乃木館という民家のような建物があります。明治41年に開かれた寄宿舎で、当時の院長・乃木希典（まれすけ）が、学生と寝食を共にしたいがために造りました。当時、院長は院長官舎に入るのが慣例でしたが、乃木院長はこの寄宿舎で4年間を過ごしたそうです。現在も大学祭実行委員や書道部に利用されているようです。

このような背景を知らずに訪れたらただの門、ただの教室でしかないかもしれません。しかし、国の文化財だと認識して改めてその姿を見てみると、一入の感動が込み上げてはきませんか。（福井麻斗）

情報収集はここで
計算機センター

大学生活が始まると、パソコンを使う機会が増えます。特に、課題レポートの作成や、就職活動の情報収集などには心強い味方となるでしょう。そういった難題を一手に引き受けて解決してくれるのが、計算機センターです。西門からは最も奥まった位置にありますが、最新鋭のコンピューター設備が自由自在に使える場所なのです。

深い緑に囲まれたこの建物には、180台近いパソコンが設置されていますが、それだけではありません。各種用紙サイズの印刷機やスキャナーも完備していますし、なんとデジタルカメラやビデオカメラの貸出も実施しています。

また、室内にはパソコンに精通したインストラクターが数人おり、サポートしてくれるので、初心者でも安心です。ちなみに彼らは皆、本学の学生アルバイトなので、応募条件を満たせばここで働くことも出来ますよ。尚、開室時間は平日9時から18時、土曜日は9時から14時です。そして、学内の全てのパソコンは学籍番号とパスワードの登録が必須。「初等情報処理Ⅰ」あるいは「情報処理入門Ⅰ」を履修し、登録後に単位を取得すると使用可能になります。つまり、単位を落とすと取り直すまでパソコンが使えなくなってしまうので、どうかくれぐれもご注意を。

この中にはたくさんパソコンが

このように大変便利な計算機センターですが、守るべきルールも当然存在します。それは、飲食と大量印刷の禁止です。精密機器を飲み物で壊したら大変ですし、インクを無駄遣いしたら他の人に迷惑ですよね。これらを意識して、大学生らしく節度を守って計算機センターを使いこなしていきましょう。（小畑裕輝）

年中行事の催事場
百周年記念会館

正門を入って右手側に見えるのが、百周年記念会館です。この建物は、本学が学習院として開業した1877年から百年目の年に建てられました。

では、この由緒ある建造物は、どのように学生と関わっているのでしょうか。代表的な例としては、入学式や卒業式などの式典が挙げられるでしょう。また、厳粛な行事だけでなく、学生が主体となって行っているイベントの会場でもあるのです。大学祭では、ミスコンやプロの歌手によるコンサートを行います。日常的な催しとしては、音楽系部活の発表会や、ダンスサークルの公演などでしょう。他にも、就職活動のセミナーや、教授の講演会に使われています。これらの情報は、西門の近くにある看板に紹介されています。ここでは、発表会や講演会などの情報が簡単に得られるので、こまめに確認してみてください。

さて、一見すると在学生のみが使っていると思われるかもしれませんが、そうではありません。4月18日に行われるオール学習院の集いでは、学習院幼稚園の園児から卒業生の方が集まります。内容は、園児の歌の披露や小学生の管弦楽部、中高生のブラスバンドやリコーダーのアンサンブルの演奏会などです。他にも同窓会や、小学生から高校生が所属するオーケストラの練習の場としても使用されているのですよ。

木々に囲まれた会館

本学一、大きな空間を持っている当館。ここが、学習院に在学中の生徒だけでなく、本学に縁ある広い年齢層に活用されているのもそのためでしょう。但し、使用するには手続きが必要です。まず、法人本部の施設課に問い合わせてみてください。

百周年記念会館は、用途が多く、唯一大きなホールがある所です。皆さんも行事に行って、有益な一時を過ごしてみてはいかがでしょうか。（緒方花穂里）

学習院に吹く新しい風

南7号館 中央教育研究棟

今年度から、本学ではかねてから建設中であった「南7号館」と「中央教育研究棟」の利用が開始されます。そこで、この2棟について知って頂きたいと思います。

まず、南7号館について見てみましょう。この棟は、南1号館の南側に位置し、内部は地下1階から9階の全10フロアで構成されています。各専攻学科は機能ごとにまとめられ、4～9階の上層階に専門性の高い研究室や実験室、セミナー室が設けられました。これらの教室は、Web機能の設備による遠隔双方講義が可能であるため、様々な教育スタイルに対応出来るでしょう。1～3階の下層階には、学生展示ホールや学生実験室、講義実験室、工作工場、理学部事務室などの多数の学生が利用する部門が置かれています。また、各フロアにはラウンジが付設され、コミュニケーションを促す情報共有の場となるでしょう。最新設備により高度な教育に対応出来る環境を持ち、安全面においても優れた建物です。

次に、中央教育研究棟を紹介していきましょう。この棟は大学の中央に位置し、内部は1階から12階の全12フロアで構成されています。1、2階の下層階には学生センターや学生ラウンジなど、学生が利用するサービス部門があります。3～5階には普通教室、CALL教室、演習室などの教室群、6～11階の上層階には各種の研究室が配置されました。12階の最上階には、同時通訳ブースを備えた国際会議場やラウンジなどの共用施設が配置されており、多目的なニーズへの対応が可能となるでしょう。

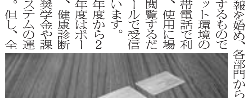
両棟とも、4月より利用可能（中央教育研究棟は一部のみの利用）です。非常に魅力的な建物なので、良い学習の場となるでしょう。

IC学生証 G―Port

新棟と同様に、今年度からG―PortとIC学生証が導入されることとなりました。そこで、これらを有効に活用していくために、その仕組みを知っていきましょう。

G―Portは、ポータルシステムを中心に履修登録や奨学金、就職支援などを備えたWebシステムの総称です。ポータルシステムとは、休講・補講・教室変更・履修科目（時間割）・成績などの各種情報を始め、各部門からのお知らせや呼び出しの情報を配信するものです。これは、インターネット環境のある全てのパソコンや携帯電話で利用することが出来るので、使用に場所を選びません。また、閲覧するだけでなく、各種情報をメールで受信することも可能となっています。

G―Portは、平成22年度から2年掛かりで完成予定。今年度はポータルシステムと履修登録、健康診断結果閲覧、来年度からは奨学金や課外活動関連、就職支援システムの運用が開始される予定です。但し、全ての情報が配信されるようになるには多少時間が掛かるので、しばらくは掲示板を確認しましょう。



学生にとって大切な学生証は、今年度からIC学生証に切り替えられます。これにはEdy機能が搭載され、証明書発行機の利用や図書の貸し出し、建物のセキュリティ管理などにも活用されることになるでしょう。

最後に、学生センターの草野芳郎所長は「これらが、皆さんの大学生活をより便利で快適なものにしてくれることを願っています」とコメントされています。是非これらを、大学生活に役立てていってください。（山田晃）

学習院大学案内図

課外活動を手助け
黎明・富士見会館

本学キャンパス西側の、隣接する2棟の施設は、黎明会館と富士見会館です。ここは、今後皆さんのサークル活動の拠点となるでしょう。

黎明会館は、様々な公認団体の部室がある建物です。部活動に参加したい人や、大学で何か新しいことを始めてみたいという皆さんは、まずここを回ってみてはいかがでしょうか。大学にある部活やサークルの数は、中学校や高校とは比べものにならない程多いのです。新たな発見があるかもしれません。また、部室は全室冷暖房完備で、多くの団体はテレビや冷蔵庫も設置しています。とても心地の良い空間なので、ついつい長居してしまいがちです。でも、授業にはちゃんと出席しましょうね。

その隣にある、黎明会館よりも幾らか大きな建物が、富士見会館です。ここには会議室やホール、集会所などがあります。ミーティングを行ったり、ホールで吹奏楽やバンドの演奏会を開いたり、用途は様々。また集会所は、団体が利用していない時であれば勉強や談話などにも使用出来ます。

サークル活動の中心地

このように両会館は、多くの学生達にとって課外活動などにおける強い味方になってくれます。しかし、使用上のルールはしっかり守りましょう。館内での飲酒・喫煙は禁止です。また、黎明会館は22時半に閉館となります。時間を忘れて遅くまで残っていると、見回りに来られる守衛さんに迷惑が掛かってしまうので、ご注意を。

サークル活動は、皆さんの大学生活を一層華やかなものにしてくれることでしょう。ハメを外し過ぎぬよう、規則はしっかり守って楽しみましょう。黎明・富士見会館を有効に活用し、充実した4年間を過ごしてください。（周防和明）

学生の力強い味方
西5号館

学内の数ある建物の中でも、特に重要な役割を担っているのが西5号館。ここには学生部など、学生生活に密接に関わる部署が多数置かれています。

1階の輔仁会館側の入口を入ると学生ホールがあり、休憩や食事をしている学生達で日々賑わっています。そのすぐ隣にあるのは喫茶コーナー「カフェ・ラ・スリゼ」。ここにはコーヒーの他にも、様々な種類の弁当やお菓子が数多く販売されています。お腹が空いたら、こちらで飲食物を買って学生ホールでくつろいではいかがでしょうか。ホールを横切った先の受付の向かい側には、三菱東京UFJ銀行のATMがあります。急にお金が必要になった時に備えて、この場所を覚えておくのも良いかもしれませんね。また、外に出て西2号館に面する扉から階段を上ると、コピーコーナーがあります。試験が近くなって、ノートやプリントをコピーしたい時などに便利です。

日々多くの学生が集います

続いて、各階にある教室を見てみましょう。地下1階と2、3階には国際会議を行うことも出来る大教室が合わせて6室あります。特に、地下1階にある教室は、館内で最大の大きさを誇ります。広いからといって、授業中に後ろの方で居眠りをしないようにしましょう。ちなみに地下の教室では、携帯電話の電波が届きにくいのでご注意を。

更に上の4階には、学生部や国際協力センター、教務課といった部署があります。中でも学生部は、奨学金制度や課外活動の申請などを取り扱い、私達がお世話になる機会も多いはずです。隣の国際協力センターは留学関係、教務課は授業の履修に関する相談を請け負っているので、質問があれば遠慮なくどうぞ。受付のすぐ側には、各種証明書の発行機があります。ここでは成績証明書や学割証などが発行出来るので、成績開示の時には学生の行列が出来ることも。また、学内の忘れ物や落とし物も学生部に届けられます。失くした物があったら、ここを訪れてみてください。

このように、西5号館の施設は学生達をあらゆる方面から支援してくれます。これらの施設を上手く利用し、キャンパスライフを一層良いものにしていきましょう。（内田哲郎）

設備多彩な建物
西2号館

西門から道なりに進むと、一際綺麗で目立つ大きな建物が見えてきます。この施設が、在学中に一度は使用することになるであろう西2号館です。

構造は地下2階、地上5階建て。1階には成文堂書店や、パソコンが多数設置されている自習室があります。書店では授業で使う教科書以外にも、参考書や資格・就職試験対策の本も取り揃えています。教科書は売り切れてしまうこともあるため、余裕を持って購入しましょう。また、自習室は印刷機を備えているので、レポートなどを作成する際の強い味方になってくれるでしょう。もしも混んでいてパソコンが使えない場合、当館入口付近にも数台設置されている所があります。そこからの印刷も可能なので、急いでいる方にもおすすめですよ。

2階以上は教室エリアです。通常の教室だけでなく、模擬法廷教室、映像教室、パソコン据え付けの教室があり、様々な実習を行うことが出来ます。また、西1号館とは渡り廊下で結ばれており、移動がスムーズに行えるでしょう。

次に地階の紹介ですが、注意点があります。実は館内から直接移動することが出来ません。黎明会館脇の階段、またはスロープを下りてください。地下1階は保健室です。通常の診断だけでなく、学校精神科医、薬剤師の方もいるため、あらゆる相談が出来ます。遠慮せずに行ってみてください。開室時間は平日8時40分～16時45分、土曜日は8時40分～12時30分まで。この他には、ランニングコースがあります。

そして階段を下ると、そこはトレーニングルームです。入室時、学生証の提示が必要なので注意しましょう。トレーニング機器の完備は勿論、更衣ロッカー、シャワー室もあります。但し、ここの機器を使うにはインストラクターによる講習を受ける必要があります。日程は張り出されているので、確認して申し込みをしてください。

立派な構えで現れる西2号館

授業のみならず、筋トレや書店利用などでもお世話になる西2号館。造りをいち早く覚え、有効活用しましょう。（谷口竜基）

平成22年度学年暦

4月10日	授業開始
5月15日	開学記念日
7月17日～30日	学期末試験
8月1日～9月15日	夏季休業
10月15日～17日	四大戦
10月17日	開院記念日
10月28日～11月1日	大学祭期間
12月21日～1月7日	冬季休業
1月18日～31日	学年末試験
2月1日～3月31日	学年末休講

CAMPUS GUIDE

〈新歓のお知らせ〉

●準硬式野球部
・日時：4月6日（火）
・集合場所：黎明106号室
・部室：黎明106号室
・PR：プレイヤー、マネージャー募集中。経験者、初心者共に大歓迎。どの学部でも勉強と両立できます。
・連絡先：生塩康朗（物2）
liv-salt@softbank.ne.jp

●アイスケート部 ホッケー部門
・日時：4月3日（土）
4月5日（月）（アイホ＆グラホお食事会）
・集合場所：セブン下
・部室：黎明115号室
・PR：プレイヤー、マネージャー共に大歓迎です！新歓氷上＆お食事会あります！お気軽に、連絡ください！
・連絡先：足立圭（物3）
njdhockey4@docomo.ne.jp

●硬式庭球部
・日時：4月3日（土） 19時10分
4月9日（金） 18時
・集合場所：学食前
・部室：テニスコート脇
・PR：是非いらして下さい☆
・連絡先：岩崎黎子（営2）
u3u-s2_cb...@ezweb.ne.jp

〈部活紹介〉

●草月華道会
・日時：毎週火曜4限後＆5限後（新歓期間中は毎日部室にいます。）
・部室：黎明213号室
・PR：初心者大歓迎の明るく楽しいサークルです♪スキルアップ間違いナシ！習い事感覚で気軽に始めてみませんか☆
・連絡先：三宅茜（日3）
present-f0r-y0u_cadeau@ezweb.ne.jp

●民族舞踊研究会
・日時：水曜・土曜の放課後。北1―301にて。
・部室：黎明215号室
・PR：こんにちは！私達は色々な国の踊りを踊っています。合宿や他大学との交流などイベント盛り沢山！お気軽に部室へお越し下さい。

社告

社員、募集。

新聞づくりは文章上達の近道。膨大な情報のなかから不要なものをいかに落とし、必要なものをいかにまとめていくかがポイント。企画を練り、取材を行い、記事を書き、見出しをひねり出すことで、自然と情報を編集する力がついてくる。その力は講義でも演習でも役に立つこと間違いない。興味がある方はぜひ黎明会館316号室へ。

学習院大学新聞社
黎明会館316号室　3986-0221（内線2607）

堪能！目白のご飯処

洋食なら このお店！

MAC's CARROT

山手線池袋方面の改札を出ると、そのすぐ右手に、青と黄色の文字で描かれた、ポップな看板がある。ここが、創業36年の洋食屋**MAC's CARROT**だ。開店当初から多くの本学学生が訪れ、今も友人同士でランチや、ゼミやサークルの打ち上げなどに利用されている。まさに、本やお茶、ベーコン、きのこなどの具が入っており、ボリュームもあるこの一品。後を引く味わいに、あっという間に完食してしまった。

他にも300円のチキンソテーやクラタンなどがある。各々4つのサイズがあるので、大人数での注文も可能。

次にオーダーしたのが、長年の人気を誇る、当店自慢のバナナシェーク（735円）だ。カップの淵から溢れ出る程のチョコレートがけ。アイスが、見る者を圧倒する。ほんのり甘いシェークと一緒に味わえば、口の中でアイスクリームが溶けて、なめらかな触感を楽しめる。1杯で充分に満足出来る量なので、主食のお供は勿論のこと、単独で注文するのも良いだろう。

このように、当店の料理が、般的な量よりも多く作られているのは、学生のお客が多いからだろう。お腹を空かせた彼らに、1品でも満腹になってもらおうという心遣い嬉しい。

更に、本場ロンドンから工場のパティオイメイムは、ジャンクフードが有名だ。今回は、ビフニストとヴァイオリニストにお薦めの一品。

営業時間：10時～20時
定休日：日・祝
※ラストオーダー　22時半

名前は△ 味は◎

さんかく

人気ラーメン店の店主もお忍びで通う実力派。それが中華そば**さんかく**である。自由駅を出て左手の階段を下り、右に見える坂を内で奏でる音楽が、大人の心を癒す。実はこと、昭和22年に新宿西口近くで創業した、歴史ある中華そば屋である。

3代目主人のコンセプトは「安心・安全・身体にやさしい物を出し続けて」である。その言葉通り、減塩を掛け10年前より20%以上塩分を減らし、食材も全て国産にこだわっている。自慢の中華そば（700円）は、澄んだ鮫色の清湯スープがさっぱりとした、魅きた、醤油を付けずにそのまま味を楽しめる。素材本来の甘みを感じるのも良い。香酢に特製のラー油に付けて召味しく頂ける。香ばしさとピリリとした辛味がアクセントとなり、違った旨味が楽しめるのだ。

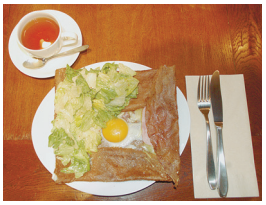
また、さんかくでは食事をする快適な空間作りにも力を入れている。ラーメンし、減しだとは思えない程美味しい味わい深いスープが完成する。そのスープが絡む麺は中太でコシが強く、小麦の味が活きている。

同じスープを使ったたん麺（900円）は、目白への移転後に作られた。しっかり味付けされた群馬産もち豚を贅沢に詰め込み、具が透けて見える程のわんたんが存在感を放っていた。チャーシューよりも上位なので、肉好きの方には特におすすめのこお店なのだ。

ランチの時間帯のみ、麺のボリュームが多い。手を掛けた高品なので、肉好きの方には特におすすめのこお店なのだ。

ランチの時間帯のみ、麺のボリュームが多い。手を掛けた高品なので、肉好きの方には特におすすめのこお店なのだ。

本場 フランスの味



Le Mont St Michel

外に出るのも億劫な夏が過ぎ、気分が浮きうつ春が来た。だからこそ混み合う学食を避けてのんびりしたいもの。テイクアウトレビュニック気分を味わうことが出来るのも、この季節ならではだ。

雑穀おにぎり専門店　目白ファーム（営業時間：8時半～17時半　定休日：日・祝）がおすすめだ。目白住のご主人が開くこの店では、注文したその場で握る。少し時間は掛かるが、これも出るだけ温かいものを提供する店側の心意気だ。酒帽受け渡し際は、食べやすいよう、バーガー袋に入れることも出来る。材料にも妥協はしない。米は消化の良い13種の雑穀米を使用し、具材は有機栽培のものを厳選、まろやかな美味の岩塩ふっくらと握る。

これ程のおこだわりの商売にもかかわらず、値段は1～4円から手軽さ。おにぎりの他にも、店の棚には、やしょうが煮、梅干しなど、健康に配慮した、無添加のものを揃えている。但し、閉店時間は夕方なので、ご飯がなくなる程人気の商売となる。そのため、早めに来店するのが得策である。

開食に甘いものが欲しい。そんな時にもっていくのが、**生そば　車**に併設のたい焼き屋（営業時間：10時～20時　定休日：日・祝）だ。この地に開店して4年目、店舗は階段を降りた地下に移転しても尚、長い歴史を感じる本学の学生に愛され続けている。

値段は1～10円と安価であるが、その質の追求は尽きることなく、自家製の生地を介する**Le Mont-St-Michel**は、そんな時にぴったりの店である。

ここはこがいい焼きの部分まで、余すことなくしっかり入っている。生地の外側はパリッとした焼き加減にもかかわらず、中はもちもちとした食感で、あんこの甘さを引き立てている。まさに財布に優しい贅沢な品である。

「ガレット」と呼ばれるフランス家庭料理が自慢のレストランだ。店のエリアを開けるとフランススタッフが「Bonjour!」と陽気に挨拶をしてくれる。フランスの旅行を起こすほどだ。

ランチタイムには、A～E5つのセットが提供されている。中でも学生に人気なのが、メニューAのクレープランチ（900円）だ。ガレットにサラダが付いており、手軽に本格的なガレットを味わいたい時にはおすすめである。プラス100円でコーヒーまたは紅茶を頼むことが出来るので、併せて注文するのも良いだろう。ガレットは、具材がエンタルルチーズ、ハム、そして卵のシンプルなもの。素材の持ち味が充分に活かされながらも、互いに引き立て合っている。

大学生ともなれば、いつも一味違った食事を楽しみたい。そんな時にはこのお店がおすすめだ。ここではフランス家庭料理の一皿、ガレットは、具材にエンタルルチーズ、ハム、そして卵のシンプルなもの。素材の持ち味が充分に活かされながらも、互いに引き立て合っている。

ガレットは、具材にエンタルルチーズ、ハム、そして卵のシンプルなもの。素材の持ち味が充分に活かされながらも、互いに引き立て合っている。

ガレットは、具材にエンタルルチーズ、ハム、そして卵のシンプルなもの。素材の持ち味が充分に活かされながらも、互

マスタードが効いた爽やかなトクレープ、サラダもくはスープ、ドリンクが含まれている。ガレットとクレープは、共に4種類の中から選択が可能である。

人気のクレープはカンブルメー・クレープはメロディ時を提供している。

ンターナーチーズ、玉ねぎ、卵黄、牛ハム肉が具材として使われており、深みのある味わいが印象的である。濃厚な卵黄と芳醇なチーズ、玉ねぎの甘味シンプルな牛肉が合わさり、スタフの照れ光る逸品である。

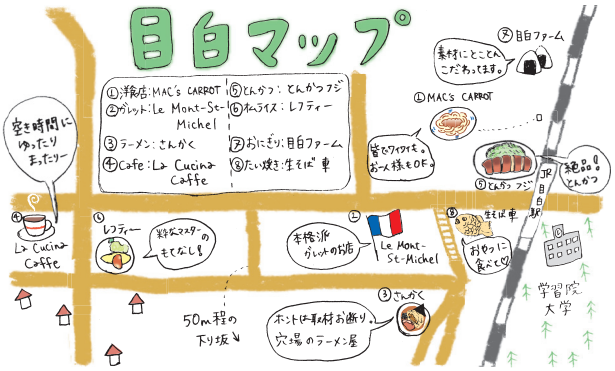
バニラアイス、りんごのキャラメルがけ、塩バターキャラメル、ホイップクリームが甘いハーモニーを奏でるのはメロディ。温かいクレープにバニラアイスが合わさり、口の中で溶けたン。また、歯切れの良いリンゴが柔らかいクレープと絶妙にマッチし、至福の一品。カンブルメーはエメ

鱈いことに、この店では生証を提供すると10%の割引を受けられる。良心的な値段で、肩肘を張らずにフランス料理を楽しんでみてはいかがだろうか。きっと、何気ない学生活にスパイスが加えられるだろう。

（大久保吉男）

定休日：木定休
営業時間：
日～木　11時半～23時
金・土　11時半～24時

目白マップ



隠れ家的名店

レフティー

目白の街には、メディアで紹介される程の有名店である。その1つが、目白駅近くに店を構える、洋食屋**レフティー**だ。お昼時は学生やサラリーマンで店内が満席になる程で、連日賑わいを見せている。

店内はシックな品々が並び、懐かしい雰囲気が漂う。

レフティーでオムライスを使っているため、美味しいオムライスは酸味が少なく、とても食べやすい。更にかかっているソースとの相性もばっちりだ。ソースが上まで覆われているため、ケチャップ味とは違う、まろやかな味が楽しめる。また、付け合わせのサラダは新鮮な野菜を使っているため、シャキシャキしていて歯応えも充分。使っているドレッシングは、ご主人の手作りによるものだ。

ライスは酸味が少なく、とても食べやすい。更にかかっているソースとの相性もばっちりだ。ソースが上まで覆われているため、ケチャップ味とは違う、まろやかな味が楽しめる。また、付け合わせのサラダは新鮮な野菜を使っているため、シャキシャキしていて歯応えも充分。使っているドレッシングは、ご主人の手作りによるものだ。

こだわりは、手間暇を掛けて調理することであり、それは食事を通して随所に感じられる。あなたも一度、レフティーで食を楽しみ、心とお腹を満たしてはいかがだろうか。

（伊藤友意）

定休日：日曜
ランチ　11時半～14時45分
バー　18時～24時

小粋な モダン喫茶

La Cucina Caffe

隠れ家住宅街である目白駅から徒歩5分の場所に、黄色い看板が目印の**とんかつフジ**がある。親しみの持てるご夫婦が営むこのお店は、来年で創業40年になる老舗だ。群馬県産の柔らかい豚肉がサクサクの衣を薄くまとい、ポリ屋独特の油の臭いが全くしない店内ではジャズが流れ、年代物のラジオが並ぶ。更に、外から店内が見えないため、最初入りにくいかもしれないが、かえって入通り客を気に甘さず、ゆったりと食事が出来るだ。

プロをも引き付ける味と、お客さんに対する隔々まで行き届いた思いやりを兼ね備えた、さんかく、住宅街の一角でも人々が集まる理由はそこにあるのだろう。是非、一度味わってほしい。

営業時間：11時～14時半
17時半～21時半
※売り切れ時、早終い有

くせになる 絶妙なお味

とんかつフジ

目白駅前から徒歩4分の場所に、黄色い看板が目印の**とんかつフジ**がある。親しみの持てるご夫婦が営むこのお店は、来年で創業40年になる老舗だ。群馬県産の柔らかい豚肉がサクサクの衣を薄くまとい、ポリ

定食は勿論も安く学生向きだが、質的より的厚みがある。上や特上のとんかつを頂ける。社会人になって食べに来てください」と答えてくれた。値段に充分

ュームがあるのだが、後味がしつこくない。それは、こま大が上質の油を使い丁寧に揚げるからこそ成せる技だ。

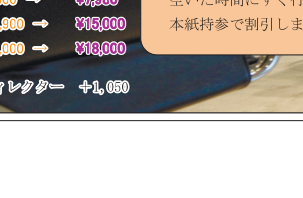
定食は、ロースカツ定食を注文したが、すると、添え物として、丹精込めて作られた自家製のお漬物、ご飯、味噌汁、キャベツの千切りとご飯おかわりまでが出来るのだ。

定食は勿論も安く学生向きだが、質的より的厚みがある。上や特上のとんかつを頂ける。社会人になって食べに来てください」と答えてくれた。値段に充分に見合う納得の味である。

最後に本学生への言葉を伺ったところ、ウチは高いから、試験が終わった時など自分への褒美として食べに来てください」と答えてくれた。

定休日：土・日・祝日
営業時間：11時半～14時
17時～21時半

隠れ家的名店



La Cucina Caffe

La Cucina Caffeは、目白通りに店を構える老舗喫茶店の跡に開いたこの店は、現在を年目、既に目白で愛される存在となった。

店内は、古き喫茶店の趣を色濃く残しつつ、画面のような古洒落た空間気を併せ持つ。まるで実の喧騒が嘘のような、落ち着いた時間が流れていた。コーヒーの香りが漂う客席では、実に幅広い層の人々が思い思いに過ごす。また、昼からは学生の姿も目だつ。

数多の商品の中でも一押しなのが、ハート形のフィルが施されたカプチーノ（300円）。それから、ダークチェリーワッフル（320円）である。ポリュームのある焼きたてのワッフルの甘酸っぱいダークチェリーが、濃厚なクリームと絡み合う。まさに、絶妙なハーモニーを醸し出している。また、心から温まるカプチーノはミルクを泡

細やかで、スイーツとの相性が良い。こだわりのドリンクを作りのワードを安価で提供するという心意気は、学生の財布を考えると良い。利用方法は人それぞれ。まずは分に任せてふらりと来店するのも良いだろう。

触強のために来るも良し、友人と来るも良し。ポリ充足感に満ちていた。気軽に立ち寄れるのが利点だ。

更に、今年からランチを始め、ドリンクの新商品も準備している。このようなこに見つめ続けるのだ。

（関根一馬）

営業時間：7時半～21時半